

令和元年度第1回みえ森と緑の県民税評価委員会におけるご意見

事業別にいただいたご意見

番号	区分	委員の発言内容
1	森を育む人づくり サポート体制整備 事業（県）	みえ森づくりサポートセンターへの問い合わせ件数が増加した、との説明があったが、運営体制の見直しなどは行ったのか？ (回答) 今年度よりスタッフを3人から4人に増員した。
2	①記念樹配布事業 (鈴鹿市)	写真2にハローツリーの説明があり、いくつかの樹種が記載されているが、今回配布した樹種とは別と考えられるが、紛らわしい記載なので改めてほしい。(昨年も同様の記載があり指摘した。)
3		毎年アンケートをとっているが、その結果を踏まえて工夫した取組につなげてほしい。
4	②森林環境教育推 進事業（度会町）	市町では、学校での森林環境教育に外部講師を頼んでもなかなか報償費を出せない状況があるので、このような小さな（少額の）取組に県民税を活用することは有意義な使い方と感じる。
5		同じ度会町で教壇の天板を県産材にする事業をしているが、この森林環境教育の事業と一体的に取り組んでいるところが興味深い。
6		1回の講座に対する事業費が高く感じたが、事業費の内訳をみると納得できた。
7	③緑の未来づくり 事業（鈴鹿市）	松枯れ防除の取組と森林環境教育の取組が1つの事業とされているのに違和感を感じる。事業のくくり方は県民に分かりやすくすべき。
8	⑥森と緑の生涯学 習講座（鈴鹿市）	すべての公民館で実施しているのか？大変だが、良い取組例と思う。 (回答) すべてではなく要望があった13の公民館のみで実施している。
9	⑦津市森林環境教 育事業（津市）	この取組は随意契約であるが、随意契約が不公平で、競争入札が公平とは限らないと考えるので、この取組は理解できる。
10	⑩病院備品等購入 事業（桑名市）	県民税を活用していることが市民に知られていないので、ハード整備が終わったらソフト面（木育や税制度の周知）に移行してキッズスペースの活用や待ち時間の活用などにより、市民にうまく伝えてほしい。
11		2年間かけて多額の費用を使っているので、県民税の活用や県産材利用についてPRしてほしい。また、継続事業はその旨を記載してほしい。
12	⑪市庁舎木質化事 業（伊賀市）	県産材の使用量13㎡で3千万円の事業をどう評価するのか迷った。
13		木材利用量（㎡）だけでなく、人目に触れる使い方がされていて評価できる。
14		施設整備（ハード）ができれば、次はソフト面でいかに活用するかが重要である。

税事業全般に関するご意見

番号	区分	委員の発言内容
1	対策区分1 土砂や流木を出さない森林づくり	台風や豪雨の後にたくさんの流木が伊勢湾に流出しているので、さらなる取組が必要と感じる。
2	対策区分3 森を育む人づくり	森林環境教育にかかる事業が増えてきており、良いことなので評価したいが、対象年齢や参加人数、実施内容と言った詳細がわからないと評価できない。
3	添付写真	できるだけ多くの写真を添付していただきたい。また、事業の前後を比較した写真は、同じ角度から撮影して分かりやすいものを添付してほしい。
4	評価方法	5年間かけて、A B評価が増えてきて、地域のニーズにあった県産材の活用例や地域住民参加型の活動が増えたように感じるが、受益者のその後の意識の変化が重要。森林環境教育を受けた子どもがどのような考えを持った大人になっていくのか追跡調査をするなど、実施効果の検証が大切。評価指標についても見直しが必要なのでは？
5		危険木を切っておしまいではなく、その先も継続的に管理されていくのか？といった継続性や持続可能性が問われる。
6	新規と継続の区別	新規事業と継続事業の区別がわかるように、継続事業については、実施済みの事業費や事業内容を記載してほしい。
7	国税とのすみ分け	県民税は、森林環境譲与税を市町が活用する場合の良いトレーニングになったはず。国税と合わせて県民税をどう活用すべきか、市町と県が協力して進めていってほしい。